

神戸大学の遠隔授業に関する学生アンケート調査結果について

大学教育推進機構長

理事・副学長 岡田 章宏

大学教育推進機構

教授 米谷 淳

(遠隔授業実施状況調査ワーキンググループ座長)

神戸大学では、令和 2 年 9 月に全学生を対象とする「遠隔授業に関するアンケート調査」を実施しました。その結果について報告します。

この結果は、他大学においても遠隔授業に関するアンケート調査を行っていますが、大学院生を含む在学生の 8 割以上の 13,567 人という多くの学生から回答を得た調査は他にあまり見られません。今後、新型コロナウイルス感染症対策の下でよりよい教育システムづくりを進めていく上で極めて貴重なデータです。

調査結果等詳細につきましては、別紙をご参照ください。

【問合せ先】

- 大学教育推進機構 教授 米谷 淳 (まいや きよし)
E-mail: kiyoshi_maiya@harbor.kobe-u.ac.jp
- 学務部学務課教育推進グループ
E-mail: stdnt-suishin@office.kobe-u.ac.jp
- 電話: 078-803-5203 (学務部学務課)

令和 2 年 11 月 27 日

神戸大学の遠隔授業に関する学生アンケート調査結果について

神戸大学 大学教育推進機構 全学教務委員会
遠隔授業実施状況調査ワーキンググループ

全国のほとんどの大学は令和 2 年度前期に新型コロナ感染症対策として全部または一部の授業を遠隔によって実施しました。後期からは十分な感染症対策を講じ授業の工夫や学生への配慮をしながら徐々に対面授業を再開しています。神戸大学も前期はほとんどの授業を遠隔により実施しました。10 月 1 日に「新型コロナウイルス感染拡大防止のための神戸大学の活動制限指針」をレベル 1（一部レベル 2）に引き下げて一部を対面授業に戻しましたが、再び感染が拡大する可能性を考慮しつつも、対面で教員と学生が語り合うことの教育的意義を尊重するとともに、キャンパスで様々な学修活動をしたいという学生の思いを真摯に受け止めながら慎重かつ着実に制限緩和を進めていく方針です。

本学は、授業を遠隔により実施したことで学修支援システム BEEF の使用が飛躍的に上昇しただけでなくオンライン会議システムを用いたライブ型遠隔授業もかなり実施されるようになりました。これは今までにない状況であり、学生だけでなく教員もそうした変化に対応できずにいろいろな問題に直面しています。こうした中、学生の受講実態や学生及び教員が直面している問題を把握して今後の授業や教育システムの改善に活かしたいと考え、7 月に全学教務委員会に遠隔授業実施状況調査 WG を設置し、関係部署の協力を得ながら調査検討を進めています。

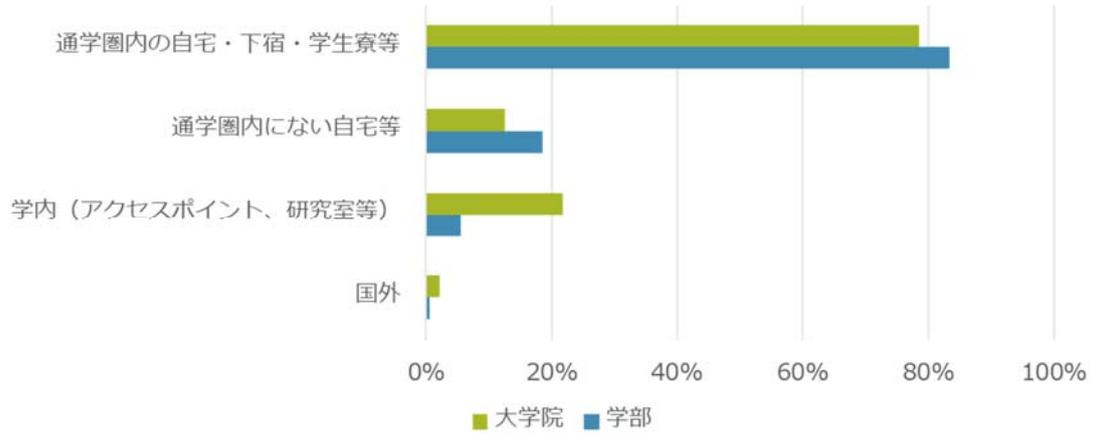
こうした取組みの一環として 9 月 8 日から 9 月 30 日までの期間、神戸大学教務情報システム「うりぼーネット」により全学生を対象とするアンケート調査を実施しました（医学研究科は紙媒体で実施）。その結果、学部生 10,792 名（回答率 93.7%）、大学院生 2,826 名（60.9%）から回答が得られました。学生の皆さんにはアンケート調査にご協力いただき心から感謝します。結果の概要を以下にまとめます。

回答者数（在籍者数は 9 月 1 日現在）

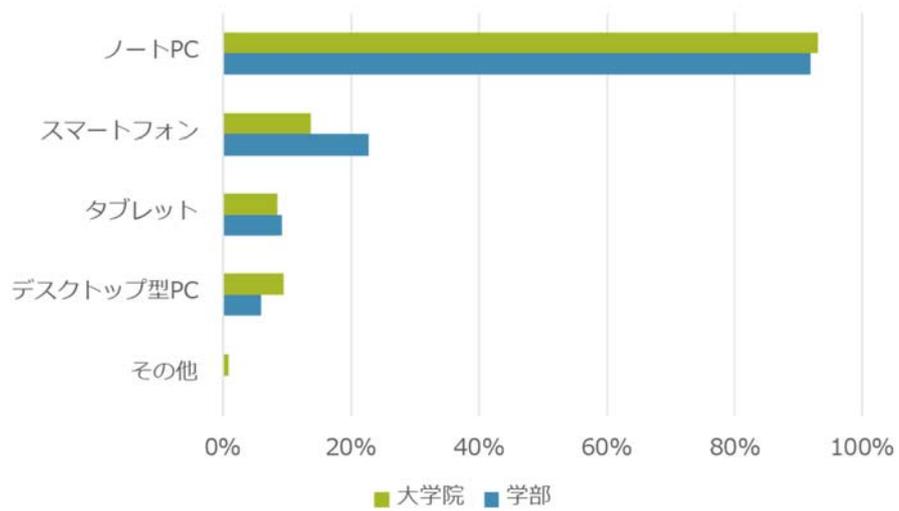
	回答者	在籍者	回答率
学部	10,792	11,521	93.7%
大学院	2,826	4,559	60.9%
全体	13,567	16,080	84.4%

学生の 7 割以上は通学圏内の自宅・下宿等から遠隔授業を受講していますが、それ以外では学部生の 2 割弱が通学圏内がない自宅等から受講しているのに対して、大学院生は学内に設けられたアクセスポイント（教室）や研究室から 2 割以上が受講しています。使用端末はほとんどノート PC ですが、スマートフォンを学部生は 2 割以上、大学院生は 1 割以上が使用しています。通信手段は学生の 9 割以上が自宅・下宿のインターネット回線を使用していますが、スマートフォンのテザリング機能を使用している学生が 1 割以上います。

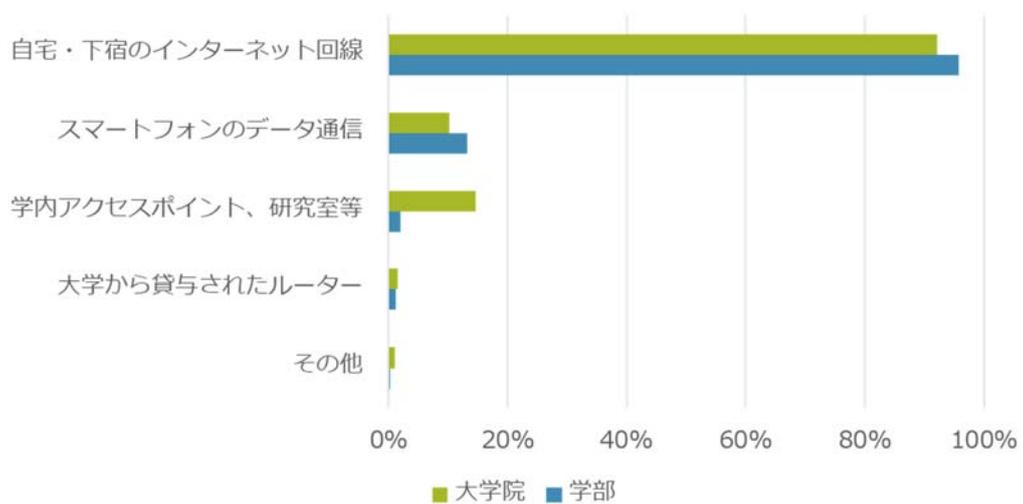
受講場所（多重回答）



使用した情報端末（多重回答）



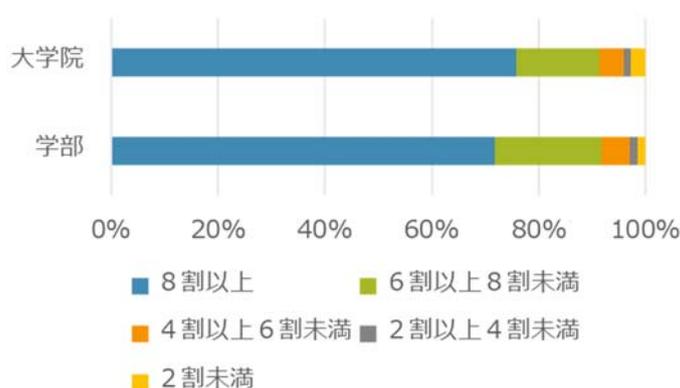
通信手段（多重回答）



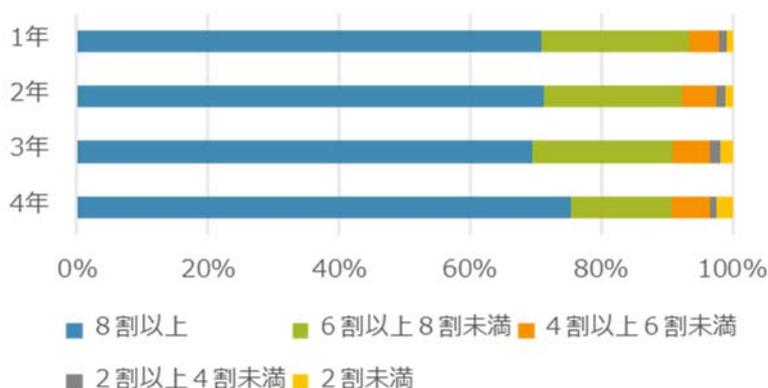
とくに支障なく十分受講できた授業が受講した授業のうちどれくらい占めているか聞いたところ 7 割以上の学生が 8 割以上と答えていますが、4 割未満と答えた学生が 3%います。前期の遠隔授業について問題と思われる事項を多重回答方式で選んでもらったところ最も多いのは 6 月下旬にあった大学のネットワーク障害ですが、次は学部生が「BEEF への接続に時間がかかる」(32.0%) であり、大学院生は「授業中に話す機会がない」(28.1%) です。学部生も「授業中に話す機会がない」は同じくらいですが、大学・学部からの情報不足、健康上の問題、「担当教員が遠隔授業に不馴れ」を選んだ学部生が 3 割近くいます。遠隔授業に関する問題への対処方法は「自分で対処した」が 5 割以上ですが、大学が 4 月に設置した遠隔授業のためのポータルサイト「レクチャーハブ」を学部生は 4 人に 1 人以上、大学院生は 2 人に 1 人以上が使用しています。

遠隔授業を受講する上で問題と思うものを多重回答で選んでもらったところ、「特になし」を除けば学部生、大学院生ともに「学習上の問題(長時間オンラインで受講し続けること)」が最も多く、学部生は「人間関係上の問題(友達ができない・相談相手がいない)」、「心理面の問題(不安、孤独感に悩まされる)」が次に多いです。

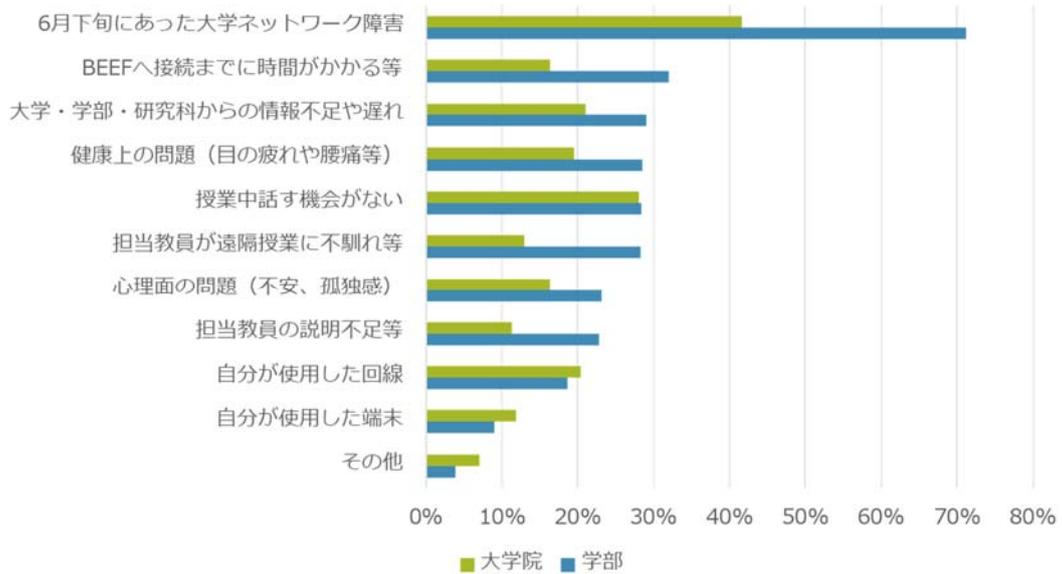
支障なく十分受講できた授業の割合



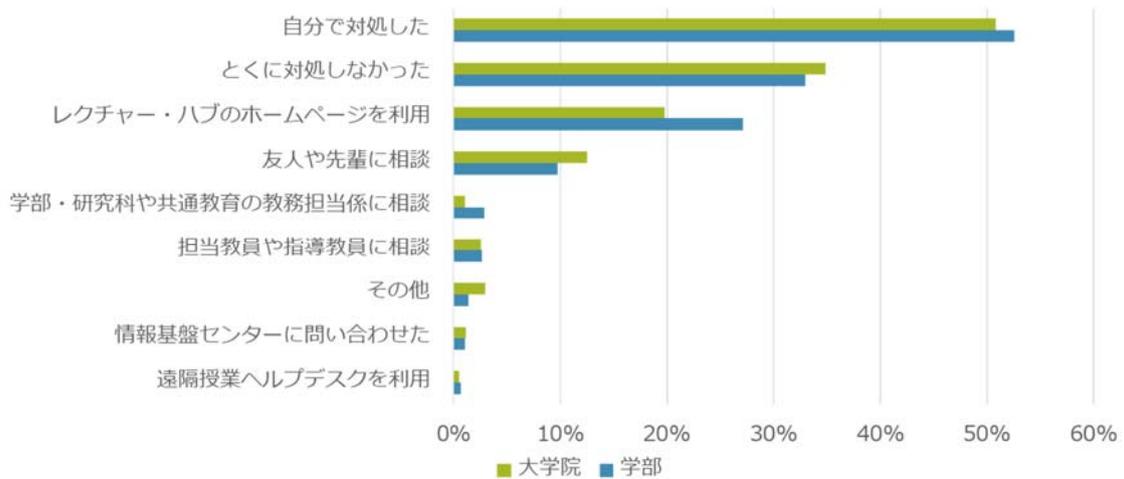
とくに支障なく十分受講できた割合 (学部学年別)



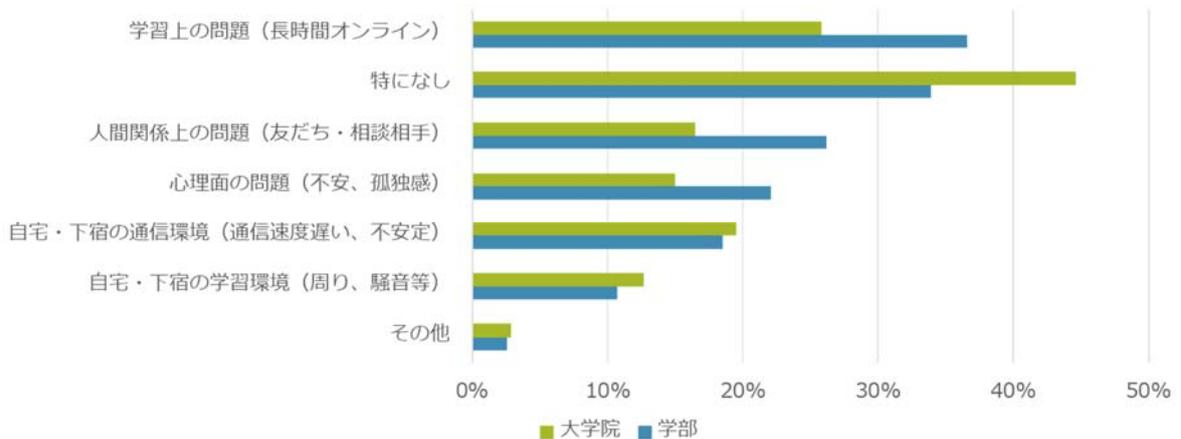
遠隔授業に関する問題（多重回答）



問題への対処方法（多重回答）



今後の遠隔授業の懸念事項（多重回答）



遠隔授業に関する問題の「その他」に書かれた 421 の記述回答と、遠隔授業についての意見・要望等を書かれた 1,793 の記述回答を分析したところ、選択肢にあった問題や懸念事項の他に、多くの学生が課題や授業についてコメントしていました。遠隔授業に関する問題の「その他」の記入欄に書かれた回答で一番多かったのが「課題が多い(多すぎる)」(87人)であり、「フィードバック(がない、遅い)」(4人)も挙げられています。遠隔授業についての意見・要望等への自由記述回答で最も多かったのは「課題」で 423 人が言及しており、そのうち 197 人が課題の多さを問題にしています。授業の質(の低さ)について遠隔授業に関する問題「その他」と遠隔授業についての意見・要望等で、それぞれ 24 人、88 人が問題にしています。

これら以外に、学修支援システムやオンライン会議システムが教員や授業により異なっているのを統一してほしいという意見が複数あげられています。一方、オンデマンド型授業とライブ型遠隔授業のどちらがよいかについては賛否両論がありました。また、必ずしも遠隔授業が対面授業と比べて劣っているわけではないと考える学生も少なくないことがわかりました。「クラスメートと交流できる対面授業がよい」「後期はキャンパスで対面授業を受けたい」という意見だけでなく、数は比較的少ないものの、「きちんと作り込まれたオンデマンド授業により授業がよく理解できた」「オンライン授業の録画を後で視聴できて復習に役立った」「これからもずっと遠隔授業だけにしてほしい」等の意見もありました。

遠隔授業に関する問題「その他」記入欄に書かれた回答内容(上位5つまで)

内容	件数	%
課題	103	24.5%
オンライン授業(モチベーション・集中力低下等)	92	21.9%
通信	40	9.5%
授業	31	7.4%
情報/サポート	22	5.2%
計	421	

以上、遠隔授業に関する学生アンケート調査結果から、前期の遠隔授業について学生の全体的な特徴を概ね把握することができました。また、自由記述回答から検討すべき点を浮かび上げることができました。この調査結果を踏まえてさらに検討を進めることにより、新型コロナウイルス感染症対策の下でよりよい教育システムづくりを進めていけるものと考えます。